

1. 現行学習指導要領の成果と課題

- 体育科、保健体育科については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体育と保健の一層の関連や発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図りつつ、指導と評価の充実を進めてきた。その際、「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」のバランスのとれた指導に留意するとともに、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視する等、知識や技能の習得や向上のみに偏らない指導に留意してきた。
- 体育については、小学校、中学校、高等学校の12年間の系統性を4年ごとに整理し、児童生徒の発達の段階に応じた指導の充実を図ってきた。小学校第1学年から第4学年までを「各種の運動の基礎を培う時期」とし、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てること等を目指した。小学校第5学年から中学校第2学年までを「多くの領域の学習を経験する時期」とし、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てること等を目指した。中学校第3学年から高等学校卒業までを「卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする時期」とし、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てることを目指した。
- 「する、みる、支える」等のスポーツとの多様な関わり方等の理解を図るため、中学校・高等学校において、知識に関する領域として、国際的なスポーツ大会が果たす役割等、具体的な指導内容や指導の時間数の目安を示した。また、運動に関する領域においては、前述のとおり、「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」のバランスのとれた指導に留意してきた。そのため、「する、みる、支える」のスポーツとの多様な関わりの必要性や、公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていることなど、一定の成果がみられる。他方で、習得した知識を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があるのではないかと指摘がある。
- 子供の体力の低下傾向に対応して、実生活、実社会で運動が継続できるよう、体づくり運動を小学校低学年から実施し、多様な動きをつくる運動(遊び)を新たに示した。また、中学校以降は、指導の時間数の目安を示すとともに、自らのねらいに応じて運動の計画を立てて取り組む能力の育成を重視してきた。そのため、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まったこと等、一定の成果がみられる。他方で、運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答する子供がおり、中学校女子においては約2割となっているなど、依然として運動する子供とそうでない子供の二極化傾向がみられる。また、子供の体力について、低下傾向には歯止めがかかっているものの、体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、依然として低い状況がみられる。
- 保健については、健康に関する基礎的な知識の習得し、活用する学習を重視してきており、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いてい

ることなど、一定の成果がみられる。他方で、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習は不十分で、子供の論理的な思考力（特に健康課題の解決方法を根拠に基づいて評価し、目的に応じて活用する力）の育成に課題があるのではないかという指摘がある。また、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要ではないかとの指摘がある。

- 特別な配慮を要する児童生徒について、体育科、保健体育科においては、これまで、安全上の配慮から、当該児童生徒の能力等に応じた適切な学習機会を十分に提供できていない状況や、他の児童生徒との円滑な関係を構築するための指導が十分にされていない状況及び指導場面において、安易な学習内容の変更や学習活動の代替になっているのではないかとの指摘がある。

2. 育成を目指す資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

（１）体育科、保健体育科等の特質に応じた見方・考え方

- 各教科においては、育成を目指す資質・能力を三つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）で明確化し、深い学びにつなげていくことが求められている。その際、各教科の特質に応じて育まれる「見方・考え方」が重要とされている。
- 体育科、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを踏まえ、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成や健康の保持増進のための実践力の育成及び体力の向上について考察することが重要である。
- 「体育の見方・考え方」については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。」と整理することが適当である。
- また、「保健の見方・考え方」については、疾病や傷害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。」と整理することが適当である。

（２）小・中・高等学校を通じて育成を目指す資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

- 体育科、保健体育科においては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決に向けた主体的・協働的な学習活動を通

して、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」を育成することを目標として示す。

- また、幼児期に育まれることが期待される健康な心と体等の基礎の上に、小学校・中学校・高等学校教育を通じて育成を目指す資質・能力を、三つの柱に沿って明確化し、バランスよく育成していくことが大切である。体育科、保健体育科においては、「する、みる、支える」に「知る」を加え、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としながら、各学校段階を通じて、運動やスポーツを楽しむとともに、その関心を高め、技能の指導に偏ることなく、「する、みる、支える、知る」等のスポーツとの多様な関わり方を育み、運動やスポーツが持つ価値を理解することが大切である。あわせて、健康の価値に気づき、自他の健康の保持増進を図り、明るく豊かで活力ある生活につなげることが重要である。

【小学校】

- 体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 - ① 各種の運動の特性や魅力に応じた行い方及び身近な生活における健康についての理解を図るとともに、基礎的な動きや基本的な技能を身に付けるようにする。
 - ② 運動や健康についての自己の課題に気づき、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。
 - ③ 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【中学校】

- 体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 - ① 各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び個人生活における健康についての理解を図るとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
 - ② 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考・判断し、目的に応じて他者に伝える力を養う。
 - ③ 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【高等学校】

- 体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 - ①各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び社会生活における健康についての理解を図るとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
 - ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考・判断し、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
 - ③生涯にわたって運動への多様な関わり方に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
- 体育においては、「体育の見方・考え方」を働かせて、学習したことを実生活や実社会で生かすことができるよう、運動に関する「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全等の態度を含む「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力をバランスよく育成することが必要である。
- 保健においては、「保健の見方・考え方」を働かせて、健康に関する「知識・技能」、健康課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に健康課題の解決に向けて取り組む態度等を含む「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成することが必要である。

（知識・技能）

- 体育における「知識・技能」については、豊かなスポーツライフを実現する観点から、発達の段階に即して、運動の特性に応じた行い方や一般原則等の知識及びスポーツに関する科学的知識や文化的意義等を理解するとともに、各種の運動が有する特性や魅力に応じた動きや技能を段階的に習得できるようにすることが重要である。また、知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習することが大切である。
- 保健における「知識・技能」については、心や体の働きや生涯を通じて自他の健康を保持増進し、改善するための基礎的な知識を発達の段階を踏まえて体系的に習得していくことが重要である。保健の技能については、配当時間も踏まえてストレスの対処や応急手当などに絞って明確に示すことが重要である。
 - ・小学校運動領域については、各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能を習得し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする観点から、各種の運動の行い方に関する基礎的な知識と基本的な技能を相互に関連付けながら身に付けていくことが重要である。

- ・小学校保健領域については、身近な生活における健康・安全についての基礎的・基本的な知識・技能を重視する観点から、健康な生活、体の発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防に関する知識、不安や悩みへの対処やけがの手当に関する技能の習得を図り、身近な生活に活用できる知識・技能として身に付けていくことが重要である。
- ・中学校体育分野については、運動の多様な楽しさや喜びを味わうことができるようにする観点から、中学校第1学年及び第2学年においては、小学校高学年との接続を踏まえ、全ての領域において、技術の名称や行い方等、各領域の内容と関連する知識を理解し、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりすることができるようにすることが重要である。その際、運動の特性に応じた行い方や一般原則等の知識と基本的な技能の往還を図り、それらを深める指導の充実が重要である。また、中学校第3学年においては、選択した領域において、生涯にわたって運動に親しむための知識及び基本的な技能を一層関連させ、理解を深めることが重要である。
また、「する、みる、支える、知る」等のスポーツとの多様な関わり方や、運動やスポーツの価値を理解する観点から、スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の基本的事項について理解を図ることが重要である。なお、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な関わり方を共有することができるよう、知識・技能を育成することが大切である。
- ・中学校保健分野については、個人生活における健康・安全についての科学的な知識・技能を重視する観点から、現代的な健康課題を踏まえて、心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識、ストレス対処や応急手当に関する技能の習得を図り、個人生活で活用できる知識・技能として身に付けていくことが重要である。
- ・高等学校科目体育については、運動の多様な楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする観点から、選択する領域等において、技術の名称や行い方等、各領域の内容と関連する知識を実践と結び付けて理解し、運動の技能として発揮したり、身体表現したりすることができるようにすることが重要である。また、「する、みる、支える、知る」等のスポーツとの多様な関わり方を育み、運動やスポーツが持つ価値を理解し、実生活や実社会で生かす観点から、スポーツに関する科学的知識や文化的意義等について考え、統合的な理解を図ることが重要である。なお、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践できるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう、知識・技能を育成することが大切である。
- ・高等学校科目保健については、個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識・技能を重視する観点から、現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識、ライフステージを踏まえた生涯を通じる健康の知

識、応急手当や社会資源の活用に関する技能の習得を図り、個人及び社会生活で活用できる知識・技能として身に付けていくことが重要である。

(思考力・判断力・表現力等)

- 「思考力・判断力・表現力等」については、豊かなスポーツライフを実現する観点から、課題に応じて、活動や運動の取り組み方を選んだり工夫したりするとともに、伝える相手や状況に応じてわかりやすく表現することが重要である。なお、ここで示す「表現」とは、運動の技能に関わる身体表現や表現・ダンス領域における表現とは異なり、思考し判断したことを他者に言葉や文字、動作等で表現することと捉えるものである。また、生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応できるようにする観点から、健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりを目指して疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりするための思考力・判断力や、それらを対象に応じて伝える表現力等の基礎を身に付けることが重要である。
- ・ 小学校運動領域については、自己の能力に適した運動課題を持ち、課題の解決に向けて活動を選んだり工夫したりする力を重視する観点から、自己の能力に適した運動課題に気づき、解決するための活動を選ぶ、運動の行い方を工夫する、思考し判断したことを言葉や動作等で他者に伝える等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。
 - ・ 小学校保健領域については、身近な健康課題に気づき、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力を重視する観点から、身近な健康課題に気づき、正しい健康情報を集めて、課題の解決方法を予想し考える、学んだことを自己の生活と関連付ける、健康に関する自己の考えを伝える等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。
 - ・ 中学校体育分野については、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる力の育成を重視する観点から、各領域の特性に応じて、改善すべきポイントを見付けること、課題に応じて適切な練習方法を選ぶこと等の運動の学習に関連した思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。それらのことに加え、知識に関する領域を含めた各領域の学習を活用して運動を継続して楽しむためのスポーツとの多様な関わり方を見付けること等について思考し、判断したことを、根拠を示しながら他者に伝えたり、表現したりすること等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。また、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な関わり方を共有することができるよう、思考力・判断力・表現力を育成することが大切である。
 - ・ 中学校保健分野については、健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定を行う力を重視する観点から、自他の健康課題を発見し、健康情報や知識を吟味し、活用して多様な解決方法を考える、多様な解決方法の中から、適

切な方法を選択・決定する、それらを自他の生活に活用する、自他の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。

- ・高等学校科目体育については、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる力の育成を重視する観点から、各領域の特性に応じて、課題解決の過程を踏まえて自己や仲間の課題を見直す等の、運動の学習に関連した思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。それらのことに加え、知識に関する領域を含めた各領域の学習を活用して、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためのスポーツとの多様な関わり方を見付けて提案する等の、主体的・継続的に運動に取り組むことにつながるために、思考し判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりして伝えたり、仲間と合意した内容等を表現したりする等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。また、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践できるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう、思考力・判断力・表現力を育成することが大切である。
- ・高等学校科目保健については、健康課題の解決を目指して、健康情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力を重視する観点から、社会生活に関わる健康課題を発見する、健康情報を分析し、社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える、解決方法を活用し、自他の健康やそれを支える環境づくりを目指して適切に意思決定・行動選択する、自他や社会生活の課題解決に必要な知識や技能、健康の考えや解決策を社会へ発信する等の思考力・判断力・表現力を育成することが重要である。

(学びに向かう力・人間性等)

- 「学びに向かう力・人間性等」については、豊かなスポーツライフを実現する観点から、運動の楽しさや喜びを味わい、運動やスポーツが持つ価値を理解し、生涯にわたって運動に親しんだり継続したりするとともに、これらの学習を通して、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育成することが重要である。また、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指し、主体的に健康の保持増進や回復に取り組むとともに、自他の健康の取組や心身の発育・発達を肯定的に捉える態度を育成することが大切である。

- ・小学校運動領域については、各種の運動の楽しさや喜びを味わい、楽しく明るい生活を営む態度を重視する観点から、仲間と楽しく運動することを通して、進んで学習活動に取り組む、約束を守り、公正に行動する、友達と協力して活動する、自分の役割を果たそうとする、友達の考えや取組を認める、安全に気を配る等の態度を育成することが重要である。
- ・小学校保健領域については、健康の大切さを認識し、自己の健康の保持増進や回復等に主体的に取り組む、楽しく明るい生活を営む態度の育成を重視する観点から、自己の健

康に関心を持ち、健康の保持増進のために進んで学習活動に取り組む、課題解決に向けて協力し合う、心身の発育・発達等を肯定的に捉える等の態度を育成することが重要である。

- ・中学校体育分野については、生涯にわたって運動に親しむとともに、明るく豊かな生活を営む態度を重視する観点から、第1学年及び第2学年では、運動における競争や協同の場面等を通して、多様性に気付き、公正、協力、責任、参画、共生等の意欲を持つ、健康・安全を確保する等の態度を育成することが重要である。また、第3学年では、学習する領域を生徒自らの意思で選択し自主的に取り組めるようにすることが大切である。なお、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な関わり方を共有することができるよう、態度を育成することも大切である。
- ・中学校保健分野については、自他の健康の大切さを認識し、健康の保持増進や回復等に主体的に取り組む、健康で豊かな生活を営む態度の育成を重視する観点から、自他の健康に関心を持ち、自他の健康に関する取組の良さを認める、自他の健康の保持増進や回復等のために主体的、協働的に活動する等の態度を育成することが重要である。
- ・高等学校科目体育においては、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を重視する観点から、運動の合理的、計画的な実践等を通して、多様性を尊重し、公正、協力、責任、参画、共生等の意欲を持ち、健康・安全を確保する等の態度を育成することが重要である。そのため高校入学年次においては、中学校までの学習が確実に身に付いているか確認し、手立てを要する生徒への配慮をすることが大切である。また、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践できるようにする観点から、例えば、生涯にわたるスポーツの場面を想定して、競技会・発表会の企画・運営やルール等の合意形成を図る機会を提供したり、勝敗を超えて、協同して楽しむ運動の有用性を認識する機会を提供したりする等、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう、態度を育成することも大切である。
- ・高等学校科目保健については、自他の健康を優先し、社会生活を踏まえて健康で豊かな活力ある生活を営む態度を重視する観点から、社会生活に関わる健康づくりに関心を持ち、社会生活において健康・安全を優先する、自他の健康の保持増進や回復に取り組むとともに、それを支える環境づくりに参画する等の態度を育成することが重要である。

(3) 資質・能力を育成する学びの過程の在り方

- 体育科、保健体育科における学びの過程については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向けて、これまでも心と体を一体としてとらえ、自己の運

動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに、体育科、保健体育科で小学校・中学校・高等学校教育を通じて育成を目指す「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けるために、その関係性を重視した学びの過程を工夫する必要がある。

- ・体育については、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、運動に対する関心や興味を高め、技能の指導に偏ることなく、「する、みる、支える」に「知る」を加え、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学びの過程を工夫し充実していくことが重要である。また、三つの資質・能力を確実に身に付けることができるよう、粘り強く意欲的に課題の解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間とともに課題を解決し、次の学びにつなげるという主体的・協働的な学びの過程を工夫し、充実を図ることが重要である。
- ・保健については、健康に関心を持ち、自他の健康の保持増進や回復を目指して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることができるよう、知識の指導に偏ることなく、三つの資質・能力をバランスよく育むことができる学びの過程や、健康課題に関する課題解決的な学びの過程、主体的・協働的な学びの過程を工夫し、充実を図る。

（４）「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

- 体育科、保健体育科における評価については、これまで、体育においては、「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」の指導を、保健においては、健康に関する事項の指導を、「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」、「運動や健康・安全についての思考・判断」、「運動の技能」（保健を除く）、「運動や健康・安全についての知識・理解」の四つの観点に即して評価してきた。今回の改訂では、体育科、保健体育科においては、三つの育成を目指す資質・能力を踏まえ、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価することが必要である。
- 「知識・技能」については、「運動や健康についての知識・技能」とする。
 - ・体育においては、各種の運動の名称や行い方についての知識と、その運動に関する技能を相互に関連付けて評価する。具体的には、小学校では、各種の運動を楽しく行うための基礎的な知識と基本的な技能を、中学校では、生涯にわたって運動に親しむための、特性や魅力に応じた運動についての理解及び運動の特性に応じた基本的な技能を、高等学校では、生涯にわたって運動への多様な関わり方に親しむための、特性や魅力に応じた運動についての理解及び目的に応じた技能を評価する。
 - ・体育においては「各種の運動の行い方等を理解するとともに、その運動をできるようにする」と捉える。その際、それぞれの習得に順序性を決めるものではなく、「分かっているからできる」「できた上で分かる」等、運動の特性及び児童生徒の実態等により多様で

あることに留意する。ここでは、「分かること」と「できること」のどちらも重要であることを示すものである。

- ・保健においては、健康に関する知識や技能を習得した実現状況を評価する。具体的には小学校では、身近な生活における健康・安全について、課題解決に活用できる基礎的な知識や技能を身に付けている、中学校では、個人生活における健康・安全について、課題解決に活用できる基礎的な知識や技能を身に付けている、高等学校では、個人及び社会生活における健康・安全について、課題解決に活用できる基礎的な知識や技能を身に付けていることを評価する。

○ 「思考・判断・表現」の観点については、「運動や健康についての思考・判断・表現」とする。

- ・体育においては、体育の特質に根ざした「見方・考え方」を働かせて、運動課題等の解決に向けて考えたり判断したり表現したりしている実現状況を評価する。具体的には、小学校では、自己の能力に適した課題に気づき、その解決を目指して考え、判断し、表現していること、中学校では、自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考・判断し、目的に応じてそれらを表現すること、健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫していることを、高等学校では、運動を継続するための自他の課題を把握し、課題解決の過程を踏まえて思考・判断するとともに、目的や状況に応じてそれらを表現していること、健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫していることを評価する。
- ・体育においては、ここで示す「表現」とは、運動の技能に関わる身体表現や表現・ダンス領域における表現とは異なり、思考し判断したことを他者に言葉や文字、動作等で表現することと捉えるものである。これらについては同一の用語を用いるため、教育の現場で混乱が生じないように、整理する必要がある。
- ・保健においては、保健の特質に根ざした「見方・考え方」を働かせて、健康課題の解決に向けて考えたり判断したり表現したりしている実現状況を評価する。具体的には、小学校では、身近な課題に気づき、その解決を目指して考え、判断し、それらを表現している、中学校では、個人生活における課題を把握し、その解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表現している、高等学校では、個人及び社会生活における課題を発見し、その解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現していることを評価する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、従前の「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」が相当するが、体育においては、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する態度の指導が「主体的に学習に取り組む態度」の育成と密接に関連する。そのため、評価においても、これらの態度に関する指導を総合的に捉え、「主体的に学習に取り組む態度」として評価することが求められる。

- ・体育においては、主体的に運動に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する態度の実現状況を評価する。具体的には、小学校では、進んで学習活動に取り組む、約束を守り公正に行動する、友達と協力して活動する、自分の役割を果たそうとする、友達の考えや取組を認める、安全に気を配る等、中学校では生涯にわたって運動に親しむことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する内容を含め、学習に自主的に取り組もうとしていることを、高等学校では、生涯にわたって運動への多様な関わり方に親しむことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する内容を含め、学習に主体的に取り組もうとしていることを評価する。
- ・保健においては、主体的に知識や技能を習得したり、習得した知識や技能を活用して思考・判断・表現したりしようとしている態度等の実現状況を評価する。具体的には、小学校では、健康を大切にし、自己の健康の保持増進に関する学習活動に主体的に取り組もうとしている、中学校では、自他の健康を大切にし、健康の保持増進や回復に関する学習活動に主体的に取り組もうとしている、高等学校では、個人や社会の健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復及びそれを支える環境づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしていることを評価する。

3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

（１）資質・能力の整理と学びの過程の考え方を踏まえた教育内容の示し方の改善

- 現状では、体育科、保健体育科の内容の規定は、体育においては、「技能」、「態度」、「知識、思考・判断」、保健においては、「知識」の内容となっている。今回の改訂においては、育成を目指す資質・能力が三つの柱に整理されることを踏まえ、体育科、保健体育科については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」に示すことができる。
- 体育については、「体育の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する観点から、運動に関する「知識・技能」、運動課題の発見・解決等のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に学習に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」に対応した目標、内容に改善する。その際、児童生徒の発達の段階を踏まえて、学習したことを実生活や実社会に生かし、運動の習慣化につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるよう、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、引き続き内容の体系化を図るとともに、主体的・協働的な学びの過程を工夫し、改善を図ることが重要である。
- 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の基礎を培う時期、多くの領域の学習を経験する時期、卒業後

も運動やスポーツに多様な形で関わるができるようにする時期といった発達の段階のまとまりを踏まえ、目標や内容を示すことが重要である。

- 積極的に運動する子供とそうでない子供の二極化や実施する運動種目の一極化への指摘を踏まえ、各種の運動の特性や魅力に触れることができるようにする観点から、仲間と協同したり身体能力を高めたりする領域、動きの質を高めて楽しむ領域、相手との攻防を楽しむ領域、運動やスポーツに関する意義や価値を学ぶ領域等の領域で内容を構成することが重要である。その際、発達の段階を踏まえて内容を示すことが大切である。
- 保健については、「保健の見方・考え方」を働かせて、三つの資質・能力を育成する観点から、健康に関する「知識・技能」、健康課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に健康の保持増進や回復に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」に対応した目標、内容に改善する。その際、健康な生活と疾病の予防、心身の発育・発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、社会生活と健康等の保健の基礎的な内容について、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように引き続き体系化を図るとともに、児童生徒の発達の段階を踏まえて、現代的な健康課題に関する課題解決的な学びの過程、自他の健康の保持増進や回復及びそれを支える環境づくりを目指した主体的・協働的な学びの過程を明示する等の改善を図ることが重要である。

(2) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

- 生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を重視する観点から、健康な生活と運動やスポーツとの関わりを深く理解したり、心と体が密接につながっていることを実感したりできるようにする等、体育と保健の一層の関連を図った内容等の在り方について改善を図る。
- 体育については、児童生徒を取り巻く社会状況や生活習慣等を考慮するとともに、幼児期からの多様な動きの獲得の状況等を踏まえ、発達の段階に応じて各種の運動の特性や魅力に触れることができるよう、内容等を検討する。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等を踏まえ、児童生徒の運動についての関心や意欲を育むとともに、体力の一層の向上を図る観点から、内容等の充実を図る。さらに、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られることから、学習したことを運動の日常化につなげることができるよう、発達の段階を踏まえて内容等の充実を図る。
- 資質・能力の育成のためには、体育で学習したことを実生活、実社会で生かすことができるよう、学校全体の取組を充実することや、年間指導計画の充実、体育・健康に関する指導との一層の関連を図る。
- また、体力の向上を重視する観点から、体づくり運動の内容等について改善を図る。さらに、その他の領域においても、学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるよう、内容等について改善を図る。

- 学習したことを実生活や実社会で生かし、運動の習慣化につなげる観点から、運動やスポーツの価値及び意義について理解し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、内容等について改善を図る。
- 体育では仲間と運動に取り組む過程において、自己や仲間の体力や技能の違いを認識し、感情や行動をコントロールするための素地^{そじ}をつくることが期待されることから、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育むための内容等について改善を図る。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、各種の運動についての知識・技能等を習得する過程や知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値等の内容等について改善を図る。
- 体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点を踏まえ、三つの柱に沿って、内容等について改善を図る。
- グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る。
- 小学校運動領域については、幼児期からの多様な動きの獲得状況等を踏まえ、運動の楽しさや喜びを味わうための基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。
 - ・生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を重視する観点から、保健領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。
 - ・生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質・能力の基礎を育てる観点から、各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。
 - ・全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導等の在り方について改善を図る。その際、特に、運動が苦手な児童や運動に意欲的ではない児童への指導等の在り方について配慮する。
 - ・オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実については、児童の発達の段階に応じて、ルールやマナーを遵守することの大切さをはじめ、スポーツの意義や価値等に触れることができるよう指導等の在り方について改善を図る。
- 中学校体育分野については、小学校高学年からの接続及び発達の段階のまとまりを踏まえ、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。

- ・生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を重視する観点から、保健分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。
 - ・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する。
 - ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識し、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動の内容等について改善を図る。
 - ・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値等内容等について改善を図る。
 - ・グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る。
- 高等学校科目体育については、中学校第3学年との接続及び発達の段階を踏まえ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。
- ・生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成を重視する観点から、科目保健との一層の関連を図った内容等について改善を図る。
 - ・各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に、「思考力・判断力・表現力等」及び「学びに向かう力・人間性等」の内容の明確化を図る。また、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう配慮する。
 - ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付け、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動の内容等について改善を図る。
 - ・スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値及びドーピング等の内容等について改善を図る。

- 専門学科体育については、スポーツについての専門的な理解及び高度な技能の習得に向けた主体的、合理的、計画的な実践を通して、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進・発展に寄与する資質や能力を育成する観点から、内容等の改善を図る。
- 保健については、生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応できるようにする観点から、健康に関する「知識・技能」、健康課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に健康の保持増進や回復に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿ったバランスの良い資質・能力の育成を目指して、内容や構成を工夫することとする。
- 小学校保健領域については、身近な生活における健康・安全についての基礎的・基本的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、自己の健康の保持増進や回復等に関する基礎的・基本的内容を明確化するとともに、「技能」に関連して、心の健康、けがの防止の内容の改善を図る。また、運動領域との一層の関連を図った内容等について改善を図る。
- 中学校保健分野については、個人生活における健康・安全についての「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から、内容等の改善を図る。その際、心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容を充実する。また、個人生活における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防の内容を各学年に配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容の在り方について改善を図る。
- 高等学校科目保健については、個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視する観点から内容等の改善を図る。その際、少子高齢化や疾病構造の変化による現代的な健康課題の解決に関わる内容や、ライフステージにおける健康の保持増進や回復に関わる内容及び一次予防のみならず、二次予防や三次予防に関する内容を改善する。また、それらの内容の配列を工夫するとともに、人々の健康を支える環境づくりに関する内容の充実を図る。さらに、科目体育と一層の関連を図り、心身の健康の保持増進や回復とスポーツとの関連等の内容等について改善を図る。

4. 学習・指導の改善充実や教材の充実

(1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

- 特別な配慮を要する児童生徒に対しては、体育科、保健体育科においては、これまで、安全上の配慮から、当該児童生徒の能力等に応じた適切な学習機会を適切かつ十分に提供できてこなかった状況や、他の児童生徒との円滑な関係を構築するための指導が十分にされていなかったという指摘があることから、検討が必要である。また、指導において、安易な指導内容の変更や学習活動の代替になっていなかったかという点も指摘されているため、障害の程度にかかわらず、全ての児童生徒の十分な学びが実現できるようにすることが求められる。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等も契機としながら、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるよう、障害者理解の促進を位置付け、運動やスポーツを通しての交流等の更なる充実が求められる。
- 運動場面の学習においては、障害の有無等の多様性を認識し、障害の有無にかかわらず、共に運動を楽しむことができるよう、アダプテッド・スポーツの視点を踏まえた教材やルールの工夫を検討することが求められる。その際、特別支援学校等で取り組まれている手立て等を参考にしながら、障害の有無にかかわらず、児童生徒が運動に親しむための具体的な手立ての充実を図ることが大切である。また、障害のある児童生徒の指導に当たっては、当該児童生徒の障害特性に応じて、目標や課題を設定すること、当該児童生徒に無理のない活動を選べるようにすること、当該児童生徒の興味や関心、意欲等に応じて、身体的な活動を安全かつ適切に確保すること、障害の種類や程度等に応じた評価を工夫すること等が大切である。なお、児童生徒の障害の種類と程度等を家庭、専門医等との連絡を密にしながら的確に把握し、児童生徒の健康・安全の確保に十分留意するとともに、実態に応じたきめ細かな指導に配慮する必要がある。
- 体育理論及び保健の学習において、運動や健康・安全に関する事象に関して科学的に理解する際には、ICTを活用したり、児童生徒の興味・関心や生活経験に関連のある教材を工夫したり、実習などの体験活動を取り入れたりする等、より具体的できめ細かな指導に配慮する必要がある。なお、障害だけでなく疾患等による配慮が必要な児童生徒についても実態に応じたきめ細かな指導に配慮する必要がある。
- 体育科、保健体育科の特質を踏まえて、児童生徒の個々の特性等を十分理解し、それに応じた指導を行うことが必要であり、指導方法の工夫改善を図ることが求められる。そのことにより、児童生徒一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」を育み、その後の学習や生活に生かすことができるようにするとともに、主体的に学習する態度を育てることも必要となる。そのためには、個別学習やグループ別学習といった学習形態の導入、知識や技能の習得の状況に応じた繰り返し指導、児童生徒の興味や関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習等の学習活動を取り入れた指導等を柔軟かつ多様に導入することが重要である。その際、支援を要する子供を取り巻く児童生徒の理解や学習集団の温かい雰囲気づくりができるよう、体育科・保健体育科はもとより、様々な機会に応じて、多様性の尊重を図ることが求められる。

○ これらのことを踏まえ、具体的には次のような例が考えられる。

- ・基本的な運動動作に極端なぎこちなさがある場合、自信を持って取り組めるよう、動きを細分化したり、言葉だけでなく適切に動きを補助したりする。タブレット等で撮影した写真や動画等を活用する。
- ・勝ち負けにこだわりすぎる場合、感情を適切にコントロールできるよう、勝ったときや負けたときの感情の表し方について、事前に確認する。
- ・他者と協働したり、話し合ったりすることが難しい場合、相手の意見を聞いてから発言できるよう、話合いのルールや手順を視覚的に示す。
- ・自己分析から適切な目標を考えることが難しい場合、目標の達成感が得られるよう、目標をスモールステップで考えられるようにする。
- ・学習を客観的に振り返ることが難しい場合、どのように振り返ればよいのか分かるよう、振り返りの手順や項目を示した「振り返りシート」等を活用する。

（２）「主体的・対話的で深い学び」の実現

○ 体育科、保健体育科における資質・能力を育成するための学びの過程は、運動や健康についての課題や児童生徒の実態等により様々であるが、論点整理に示された「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの学習・指導の改善・充実の視点に基づき、以下のとおり整理することができる。なお、これら三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互に関連を図り、体育科、保健体育科で求められる学びを一層充実することが重要である。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものでないことに留意することが大切である。

（主体的な学びの過程）

○ 「主体的な学び」は、運動の楽しさや健康の意義等に気付いたり発見したりして、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりする学びの過程と捉えられる。各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視するものである。

- ・体育については、各種の運動の特性や魅力に触れるための主体的な学習を重視する観点から、運動やスポーツの楽しさや喜びを見付けるとともに、その価値を理解し、自己の目標を持ち、課題の解決に向けて粘り強く運動に取り組むこと、学習を振り返り、課題の修正をしたり新たな課題を設定したりすること、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全の大切さや意義を理解し、運動の楽しさや喜びを味わうこと等が重要である。

- ・保健については、自他の健康の保持増進や回復を目指した主体的な学習を重視する観点から、健康の大切さに気付き、健康課題の解決に向けて見通しを持ち、課題解決的な学習に意欲的に取り組むこと、学習を振り返り、学びの過程で習得された健康に関する知識・技能や考え方の成果を確認すること等が重要である。その際、子供たちの主体的な学習活動を促すよう、肯定的に展開する学びの過程を工夫する必要がある。

（対話的な学びの過程）

○ 「対話的な学び」は、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物等を含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの過程と捉えられる。自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視するものである。

- ・体育については、自他の運動課題の解決に向けて仲間と豊かに関わる協働的な学習を重視する観点から、各種の運動についての多様な楽しみ方や目的を共有すること、運動課題等とその解決方法を仲間と共有し、解決に向けて、助け合ったり教え合ったりすること、仲間と認め合い、励まし合うこと、言語活動の充実やＩＣＴの活用等を通して、自己や仲間の学びを理解すること、他者との違いに配慮し、ルール of 工夫等を通して協働的に学ぶこと等が重要である。
- ・保健については、自他の健康の保持増進や回復を目指した協働的な学習を重視する観点から、言語活動を重視し、健康課題について共通理解したり健康情報を仲間と共有したりすること、健康課題の解決に向けて、仲間と多様な意見を出し合ったり相談し合ったりしながら適切な解決方法を考えること、健康に関する考えや提案を相手の立場を考えて伝え合ったり、健康に関する話合いを通して、仲間の学びや取組に対する良さを認め、自己の健康の保持増進や回復に生かすこと等が重要である。

（深い学びの過程）

○ 「深い学び」は、自他の運動や健康についての課題に気付いたり発見したりして、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学びの過程と捉えられる。児童生徒の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、「体育・保健の見方・考え方」を育てることを重視するものである。また、他教科等で培った資質・能力を、体育科・保健体育科における課題の解決に活用することも重要である。

- ・体育については、豊かなスポーツライフを実現する課題解決的な学習を重視する観点から、各種の運動の行い方を理解し、自己の能力に適した課題を見付け、課題の解決に向けて、習得した知識を活用して運動の行い方を工夫すること、ＩＣＴの活用等により、課題の到達度を確認し、必要な知識を収集するとともに実践すること、自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付けること等が重要である。
- ・保健については、現代的な健康課題に関する課題解決的な学習を重視する観点から、健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から自他の健康課題に気付き、健康に関する情報を収集、批判的に吟味し、健康課題の解決に役立つ情報を選択するこ

と、選択した健康情報や習得した知識や技能を活用して、疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりする等健康課題の解決方法を考えること、健康課題の解決方法を自他の生活と比較したり、関連付けたりし、適切な意思決定・行動選択に役立てること等が重要である。

(3) 教材の在り方

- 体育については、「主体的・対話的で深い学び」の過程を踏まえて、学習したことを実生活や実社会で生かし、運動やスポーツの習慣化につなげたり、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択したりすることができるよう、教材の工夫やICTの活用を図ることが重要である。
- 保健については、「主体的・対話的で深い学び」の過程を踏まえて、健康に関する課題解決的な学びや児童生徒の多様なニーズ、興味や関心を踏まえ、教科書を含めた教材を工夫することが重要である。また、保健の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指してICTの活用を図ることが重要である。

5. 必要な条件整備等について

- 体育科、保健体育科の改善に向けて、教員養成、教員研修、教材整備等の環境を整えていくことも必要である。その際、体育については、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するとともに、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるようにする観点から、条件整備等を行う必要がある。また、保健については、少子高齢化や疾病構造の変化等の社会環境に対応し、子供たちが生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応できるようにする観点から、条件整備等を行う必要がある。
- 教育委員会等においては、カリキュラム・マネジメントの実現やアクティブ・ラーニングの視点に基づく学習・指導の改善・充実のための研修の充実を図るとともに、指導教諭や指導主事の資質向上及び配置等の充実を図ることが大切である。また、様々な児童生徒の実態に応じた指導の一層の充実を図る観点から、特別支援教育を含む個に応じた指導に関する研修の充実を図ることが重要である。さらに、小学校における体育専科教員の配置の充実を図るとともに、チーム・ティーチング等効果的な指導方法の実践的研究を推進する必要がある。
- 教員養成においては、各学校種において必修となっている全領域の指導の一層の充実を図ることができるようにするとともに、スポーツの多様性と価値についての理解や、体力や技能の違いに応じた指導方法、特別な支援を要する児童生徒への指導方法、体力の低下等の運動課題に関する今日的課題を解決するための指導方法、オリンピック・パラリンピックに関する指導やスポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践できるよう

にするための内容が履修できるように改善を図る必要がある。また、健康や安全に関する新たな内容や現代的な健康課題に関する課題解決的な学習の指導方法等を履修することができるよう改善を図る必要がある。さらに、児童生徒が運動や健康についての課題の解決に取り組む際、言語を用いて筋道を立てて相手にわかりやすく説明したり、互いの考えを認め合ったりする等、教員や仲間との豊かな言語活動が重要であることから、教員養成において言語能力を育成する指導力を高めることを一層重視する必要がある。あわせて、教育実習や学校インターンシップの機会を捉えて、学習指導要領の趣旨のさらなる理解や、アクティブ・ラーニングの考え方を重視した学習等の指導の在り方について実践的に学ぶことができる機会の充実を図る必要がある。

- また、実際の教育活動に当たっては、地域の人的資源を活用したり、社会教育との連携を図ったりすることが効果的であるが、特に障害者スポーツに関しては、指導者の育成が課題となっており、各種スポーツ団体等においては、そうした人材の養成に関して一層の役割を果たすことが期待される。
- 教材等においては、学校現場において、教員が「体育の見方・考え方」を理解し、運動に関する「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力をバランスよく育成するため、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善に資する指導資料等の作成や、I C Tを含めた必要なインフラ環境の整備を図ることが必要である。また、教員が「保健の見方・考え方」を理解し、心身の健康に関する「知識・技能」、健康課題の発見・解決のための「思考力・判断力・表現力等」、主体的に健康の保持増進や回復に取り組む態度等の「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力の育成のための学びの過程や、健康教育に関わる他教科等との関連や集団指導と個別指導の連携等のカリキュラム・マネジメントについて理解を深めるための資料等の作成をする必要がある。さらに、それらを活用した研修の充実や、授業で使用するA E Dトレーナー等、保健の技能に関わる備品等を準備する必要がある。

体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（案）〈高等学校〉

資料1

高等学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
科目体育	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技術の名称や行い方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 ・競技会、発表会の仕方や審判の方法等の知識 など スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の知識 各種の運動が有する特性や魅力及び目的に応じた技能 ・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力 ・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付ける力 ・スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践できるようにする仕方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示し示したり他者に配慮したりして、相手に伝える力 など	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主体的に取り組む態度 ・運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正に取り組む、仲間と主体的にかかわり協力する、役割に責任をもって取り組む、意思決定などに参画するなどの意欲をもつ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する ・スポーツとの多様な関わり方を状況に応じて選択し、卒業後も継続して実践することができる態度 など
科目保健	個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能 ・現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識(一次予防だけでなく二次予防、三次予防も含む) ・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・社会資源の活用、応急手当に関する技能	健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力 ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力 ・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力 ・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指して適切に意思決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の考えや解決策を社会へ伝える力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・社会生活に関わる健康づくりに関心をもつ ・社会生活において健康・安全を優先する ・自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに参画する

体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（案）〈中学校〉

中学校 保健体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
体育分野	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技術の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など スポーツに関する科学的知識や文化的意義等の基礎的な知識 各種の運動が有する特性や魅力に応じた基本的な技能 ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる仕方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力 など	生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを味わい、自主的に学習活動に取り組む態度 ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性に配慮し、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲をもつ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する ・スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができる態度 など
保健分野	個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能 ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能	健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力 ・自他の健康課題を発見する力 ・健康情報を収集し、批判的に吟味する力 ・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自他の生活に生かす力 ・自他の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度 ・自他の健康に関心をもつ ・自他の健康に関する取組のよさを認める ・自他の健康の保持増進や回復のために協力して活動する ・自他の健康の保持増進に主体的に取り組む

体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理（案）〈小学校〉

小学校 体育	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・ 各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・ 各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・ 自己の能力に適した課題に気付く力 ・ 自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・ 思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・ 進んで学習活動に取り組む ・ 約束を守り、公正に行動する ・ 友達と協力して活動する ・ 自分の役割を果たそうとする ・ 友達の考えや取組を認める ・ 安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全についての基礎的な知識や技能 ・ 健康な生活、発育・発達、心の健康、けがの防止、病気の予防に関する基礎的な知識 ・ 不安や悩みの対処やけがの手当に関する基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力 ・ 身近な健康課題に気付く力 ・ 健康課題に関する情報を集める力 ・ 健康課題の解決方法を予想し考える力 ・ 学んだことを自己の生活に生かす力 ・ 学んだことや健康に関する自分の考えを伝える力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく明るい生活を営む態度 ・ 自己の健康に関心をもつ ・ 自己の健康の保持増進のために協力して活動する ・ 自他の心身の発育・発達などを肯定的に捉える

体育科、保健体育科における教育のイメージ（案）

資料2

発達の段階

卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わるこ
とができるようになる

多くの領域の学習を経験する

各種の運動の基礎を
培う

【高等学校】

◎**体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- ①各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び社会生活における健康についての理解を図るとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考・判断し、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- ③生涯にわたって運動への多様な関わり方に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

【中学校】

◎**体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、合理的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- ①各種の運動の特性や魅力に応じた運動についての理解及び個人生活における健康についての理解を図るとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考・判断し、目的に応じて他者に伝える力を養う。
- ③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【小学校】

◎**体育・保健の見方・考え方を働かせて、課題を発見し、その解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

- ①各種の運動の特性や魅力に応じた行い方及び身近な生活における健康についての理解を図るとともに、基礎的な動きや基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自己の課題に気づき、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。
- ③運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【幼児教育】（※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるもの記述）

- 健康な心と体を育て、幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。
- してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。
- 身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとしていたり考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。

個人及び社会生活の健康について
より総合的に理解する

個人の健康について
より科学的に理解する

身近な生活の健康
について理解する

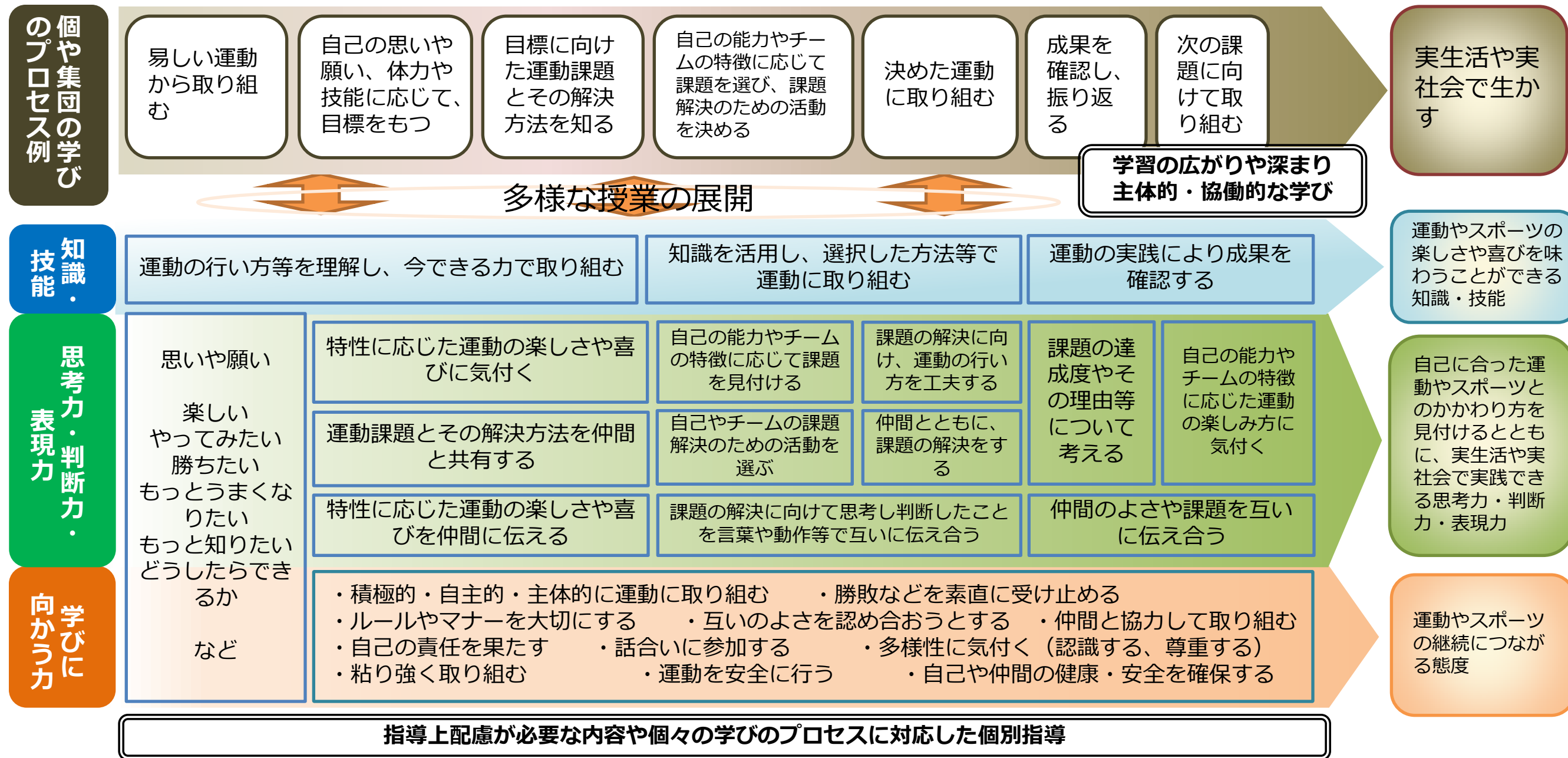
指定校事業での検証、全国体力・運動能力、運動習慣等調査等

改善のための
PDCA
サイクル

改善のための
PDCA
サイクル

改善のための
PDCA
サイクル

体育の見方・考え方：運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること

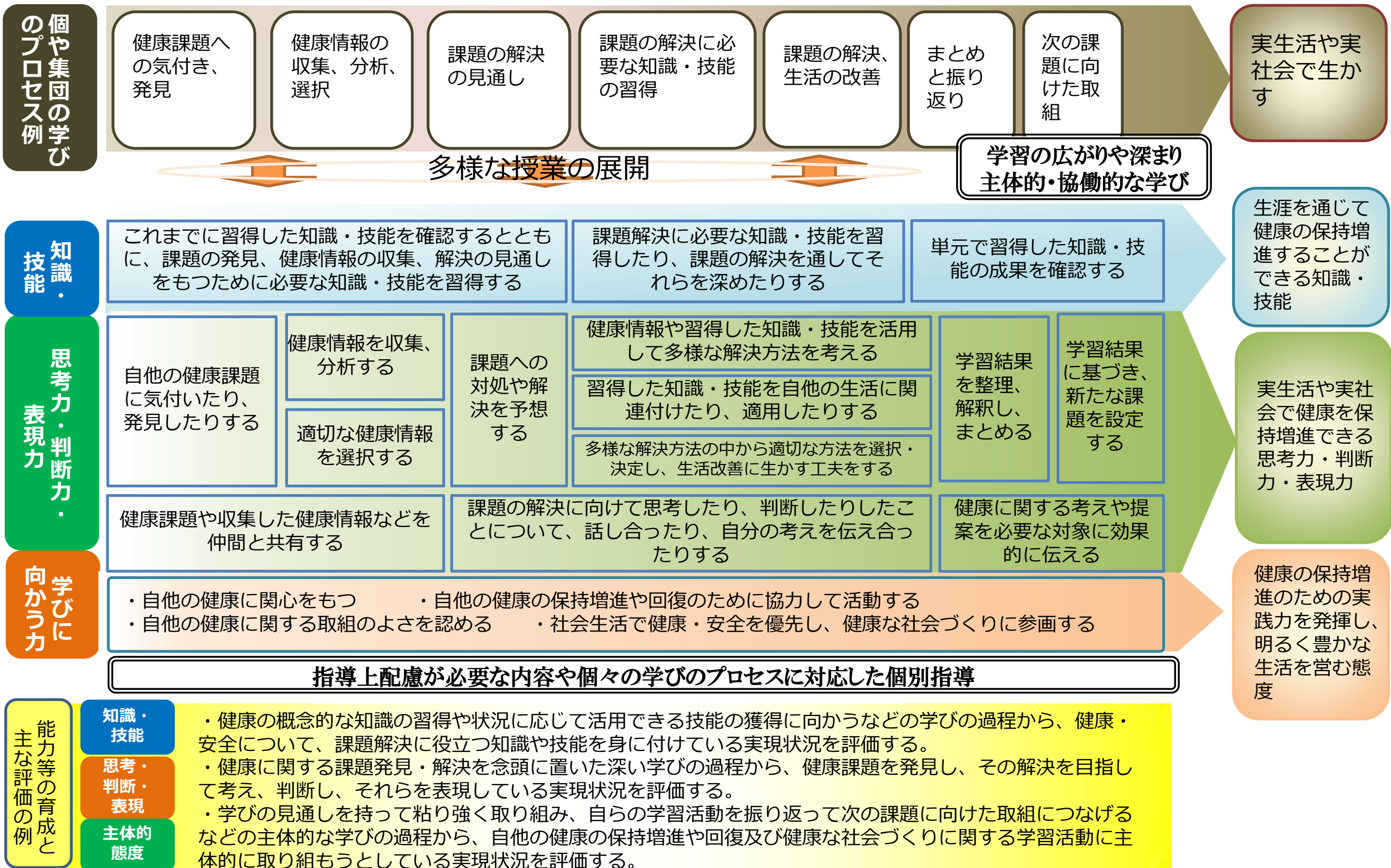


能力等の育成と主な評価の例	知識・技能	・ 発達の段階に即して、運動の特性に応じた行い方や一般原則等の知識及びスポーツに関する科学的知識を理解し、各種の運動が有する特性や魅力に応じた動きや技能を身に付けている実現状況を評価する。
	思考・判断・表現	・ 課題に応じて活動を選んだり工夫したり、課題に応じた運動の取り組み方を工夫したり、伝える相手や状況に応じてわかりやすく伝えることなどの実現状況を評価する。
	主体的態度	・ 積極的、自主的、主体的に運動に取り組もうとするとともに、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する態度などの実現状況を評価する。

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、これに限定されるものではない。また、必ずしも順序性を示したものではなく、一方向の流れではない。

体育科・保健体育科（保健）における学習過程のイメージ（案）

保健の見方・考え方：個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること



※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

豊かなスポーツライフの実現に向けた 資質・能力の関係性のイメージ（案）

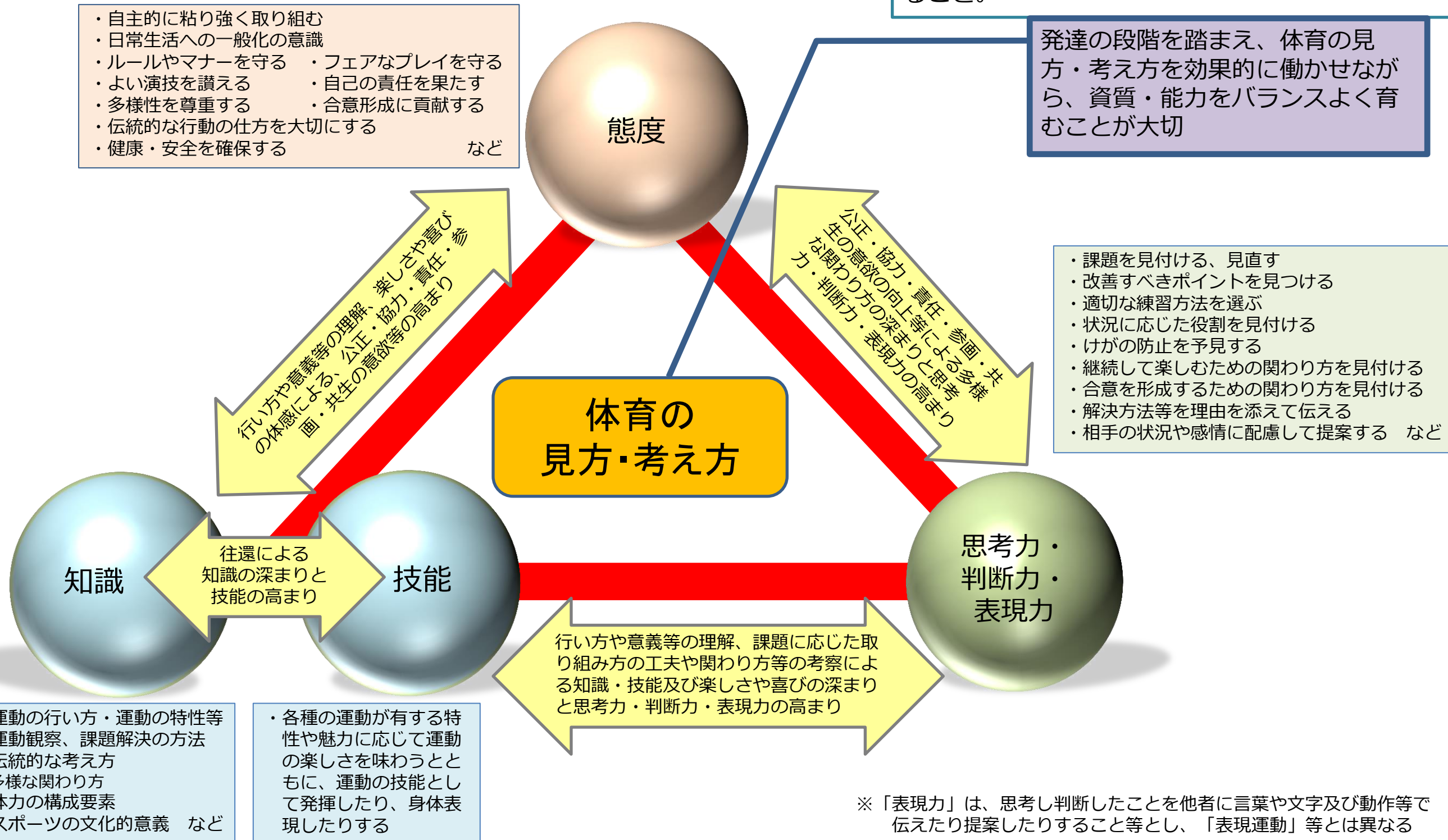
資料4

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

体育の見方・考え方

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

発達の段階を踏まえ、体育の見方・考え方を効果的に働かせながら、資質・能力をバランスよく育むことが大切



体育科・保健体育科における評価の観点のイメージ（案）

資料 5

観点（例） ※具体的な観点の書きぶりは、 各教科等の特質を踏まえて検討		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨の イメージ（例） ※具体的な記述については、 各教科等の特質を踏まえて検討	高等学校	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び目的に応じた技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活における健康・安全について、課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている	生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、それらを表現するとともに、健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている。
	中学校	運動の合理的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって運動に親しむための科学的知識及び運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。 また、個人生活における健康・安全について、課題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。	生涯にわたって運動に親しむことを目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫し、それらを表現するとともに、健康の保持及び体力を高めるための運動の組み合わせ方を工夫している。 また、個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して科学的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。 また、自他の健康を大切にし、健康の保持増進や回復に関する学習活動に主体的に取り組もうとしている。
	小学校	各種の運動についての行い方を知るとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。 また、身近な生活における健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的な知識や技能を身に付けている。	自己の能力に適した課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫し、それらを表現している。 また、身近な生活における健康課題に気づき、その解決を目指して考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進に関する学習活動に主体的に取り組もうとしている。